

広義積分 演習問題 4 解答

問 1. (1) $a > 0$ とする. このとき次の広義積分が収束するか発散するか判定せよ.

$$(i) \int_1^{\infty} \frac{\sin x}{x^a} dx \quad (ii) \int_1^{\infty} \frac{|\sin x|}{x^a} dx$$

(2) $b > -1$ とする. このとき次の広義積分が収束するか発散するか判定せよ.

$$(i) \int_1^{\infty} \frac{\sin(x^2)}{x^b} dx \quad (ii) \int_1^{\infty} \frac{|\sin(x^2)|}{x^b} dx$$

解答. はじめに, 広義積分の収束・発散の判定に関する有用な定理を復習する.

定理 1 (Cauchy の判定法). 関数 f は区間 $[1, \infty)$ で連続とする. このとき広義積分 $\int_1^{\infty} f(x) dx$ が存在するための十分条件は, 下記が成り立つことである: 任意の $\varepsilon > 0$ に対して, 十分大きな正の数 $p, q (p < q)$ が存在して

$$\left| \int_p^q f(x) dx \right| < \varepsilon$$

が成立する.

定理 2. $a, b \in \mathbb{R} (a < b)$ とし, 関数 f は区間 $[a, b)$ で連続とする. 連続関数 g で

- 各 $x \in [a, b)$ について $|f(x)| \leq g(x)$.
- $\int_a^b g(x) dx$ は存在する.

をみたすものが存在すれば, 広義積分 $\int_a^b f(x) dx$ は存在する.

定理 3. $a, b \in \mathbb{R} (a < b)$ とし, 関数 f は区間 $[a, b)$ で連続とする. 連続関数 g で

- 各 $x \in [a, b)$ について $0 \leq g(x) \leq f(x)$.
- $\int_a^b g(x) dx$ は発散する.

をみたすものが存在すれば, 広義積分 $\int_a^b f(x) dx$ は発散する.

定理 2, 3 は, 他の区間 $(a, b], [a, \infty), (-\infty, b]$ における広義積分についても同様に成立する.

(1) (i) $a > 1$ のとき, 被積分関数は $[1, \infty)$ 上で連続であり, 各 $x \in [1, \infty)$ に対して

$$\left| \frac{\sin x}{x^a} \right| = \frac{|\sin x|}{|x^a|} \leq \frac{1}{x^a}$$

が成り立つ. また, $M \geq 1$ なる M に対して

$$\int_1^M \frac{dx}{x^a} = \left[-\frac{1}{(a-1)x^{a-1}} \right]_1^M = -\frac{1}{(a-1)M^{a-1}} + \frac{1}{a-1} \rightarrow \frac{1}{a-1} \quad (M \rightarrow \infty)$$

となることから, $\int_1^\infty \frac{dx}{x^a}$ は収束する. したがって, 広義積分 $\int_1^\infty \frac{\sin x}{x^a} dx$ は収束する.
 $0 < a < 1$ のとき, 定理 1 を適用する. 部分積分により

$$\begin{aligned} \int_p^q \frac{\sin x}{x^a} dx &= \int_p^q \frac{1}{x^a} d(-\cos x) dx \\ &= \left[-\frac{\cos x}{x^a} \right]_p^q - \int_p^q \frac{d}{dx} \left(\frac{1}{x^a} \right) (-\cos x) dx \\ &= -\frac{\cos q}{q^a} + \frac{\cos p}{p^a} - a \int_p^q \frac{\cos x}{x^{a+1}} dx \\ &\leq \frac{1}{q^a} + \frac{1}{p^a} + a \int_p^q \frac{1}{x^{a+1}} dx \\ &= \frac{2}{p^a} \end{aligned}$$

となることが分かる. よって任意の $\varepsilon > 0$ に対して, 正の数 $p, q (p < q)$ を $p = \left(\frac{2}{\varepsilon}\right)^{1/a} + 1$, $q = p + 1$ と定めると

$$\left| \int_p^q \frac{\sin x}{x^a} dx \right| \leq \frac{2}{p^a} < \varepsilon$$

が成立する. 定理 1 より, 広義積分 $\int_1^\infty \frac{\sin x}{x^a} dx$ は収束する.

以上より, 広義積分 $\int_1^\infty \frac{\sin x}{x^a} dx$ は $a > 0$ のとき収束する. ■

(ii) $a > 1$ のとき, (i) と同様に広義積分 $\int_1^\infty \frac{|\sin x|}{x^a} dx$ は収束する.

$0 < a < 1$ のとき, 自然数 n に対して

$$\begin{aligned} \int_{n\pi}^{(n+1)\pi} \frac{|\sin x|}{x^a} dx &= \int_0^\pi \frac{\sin t}{(t + n\pi)^a} dt \\ &\geq \frac{1}{(n+1)^a \pi^a} \int_0^\pi \sin t dt \\ &= \frac{2}{(n+1)^a \pi^a} \end{aligned}$$

が成立する. ここで 1 つ目の等号において変数変換 $x = t + n\pi$ を行った. よって

$$\begin{aligned} \int_\pi^{(n+1)\pi} \frac{|\sin x|}{x^a} dx &= \sum_{k=1}^n \int_{k\pi}^{(k+1)\pi} \frac{|\sin x|}{x^a} dx \\ &\geq \frac{2}{\pi^a} \sum_{k=1}^n \frac{1}{(k+1)^a} \\ &= \frac{2}{\pi^a} \sum_{k=2}^{n+1} \frac{1}{k^a} \rightarrow \infty \quad (n \rightarrow +\infty) \end{aligned}$$

と分かり, 広義積分 $\int_\pi^\infty \frac{|\sin x|}{x^a} dx$ は発散する.

以上より, 広義積分 $\int_1^\infty \frac{|\sin x|}{x^a} dx$ は $a > 1$ のとき収束し, 一方で $0 < a \leq 1$ のとき発散する. ■

- (2) (i) $b > 1$ のとき, (1)(i) と同様に広義積分 $\int_1^\infty \frac{\sin(x^2)}{x^b} dx$ は収束する.
 $-1 < b < 1$ のとき, 定理 1 を適用する. 部分積分により

$$\begin{aligned} \int_p^q \frac{\sin(x^2)}{x^b} dx &= \int_p^q \frac{1}{x^b} \frac{1}{2x} \frac{d}{dx} (-\cos(x^2)) dx \\ &= \left[-\frac{\cos(x^2)}{2x^{b+1}} \right]_p^q - \int_p^q \frac{d}{dx} \left(\frac{1}{2x^{b+1}} \right) (-\cos(x^2)) dx \\ &= -\frac{\cos(q^2)}{2q^{b+1}} + \frac{\cos(p^2)}{2p^{b+1}} - \frac{b+1}{2} \int_p^q \frac{\cos(x^2)}{x^{b+2}} dx \\ &\leq \frac{1}{2q^{b+1}} + \frac{1}{2p^{b+1}} + \frac{b+1}{2} \int_p^q \frac{1}{x^{b+2}} dx \\ &= \frac{1}{p^{b+1}} \end{aligned}$$

となることが分かる. よって任意の $\varepsilon > 0$ に対して, 正の数 $p, q (p < q)$ を $p = \left(\frac{1}{\varepsilon}\right)^{1/(b+1)} + 1, q = p + 1$ と定めると

$$\left| \int_p^q \frac{\sin(x^2)}{x^b} dx \right| \leq \frac{1}{p^{b+1}} < \varepsilon$$

が成立する. 定理 1 より, 広義積分 $\int_1^\infty \frac{\sin(x^2)}{x^b} dx$ は収束する.

以上より, 広義積分 $\int_1^\infty \frac{\sin(x^2)}{x^b} dx$ は $b > -1$ のとき収束する. ■

(ii) 変数変換 $t = x^2$ により

$$\int_1^\infty \frac{|\sin(x^2)|}{x^b} dx = \frac{1}{2} \int_1^\infty \frac{|\sin t|}{t^{\frac{b+1}{2}}} dt$$

となることに注意する. (1)(ii) の結果より, 広義積分 $\int_1^\infty \frac{|\sin t|}{t^{\frac{b+1}{2}}} dt$ は $\frac{b+1}{2} > 1$ のとき収束し, 一方で $0 < \frac{b+1}{2} \leq 1$ のとき発散する. 以上より, 広義積分 $\int_1^\infty \frac{|\sin(x^2)|}{x^b} dx$ は $b > 1$ のとき収束し, 一方で $-1 < b \leq 1$ のとき発散する. ■

注意 4. (2)(i) の結果より, $\int_0^\infty \sin(x^2) dx$ が収束することが分かる. 積分 $S(x) = \int_0^x \sin(t^2) dt$ はフレネル積分と呼ばれ, 光学で用いられる.